



国際交流ひろば

12

月号

KAGOSHIMA INTERNATIONAL ASSOCIATION NEWS

VOL. 251/ December 2021

鹿児島で世界を語ろう! 第27回 外国人による

日本語スピーチコンテスト 観覧者募集

2022年 **1月29日** (土) 13:30~16:30 (開場 13:00) **定員 100名程度** (先着順)
かごしま県民交流センター1階 県民ホール

※新型コロナウイルス感染症の状況により入場者数の制限及び事前申込を行います

【申込方法】観覧をご希望の方は、氏名・住所・電話番号を Email か FAX または TEL にて、鹿児島県国際交流協会までお申し込みください。(月曜日と年末年始(12/28~1/4)は休館日です)

【お願い】当日は、マスクの着用、受付での検温・手指消毒にご協力をお願いします。

【申込み先】(公財)鹿児島県国際交流協会 TEL:099-221-6620 FAX:099-221-6643 Email:kia5@kiaweb.or.jp

がいこくじん しゅっちょうそうだんまどぐち 外国人のための出張相談窓口

12月は霧島市と曾於市で開催!

生活していて困っていることを相談できます!



12 / 11 (土) きりしまし 霧島市 国分総合福祉センター
13:00~17:00

12 / 26 (日) そおし 曾於市 末吉中央公民館
13:00~17:00

在留資格・仕事・病気・出産・子どもの教育・年金・結婚・離婚などについて、ベトナム語、中国語、英語などで相談できますので、気軽に相談してください。また、知り合いの外国人の方にも、ぜひ紹介してください。相談したい人は、電話か Email で予約してください。予約しなくても相談できますが、予約した人から先に相談できます。

《申込み・お問合せ先》

かごしまけんがいこくじんそうごうそうだんまどぐち
鹿児島県外国人総合相談窓口

TEL: 070-7662-4541 Mail: kiasoudan@gmail.com

ランチタイムトーク (中国語・英語) 再開のお知らせ

休講にしていた中国語と英語のランチタイムトークを再開します! 参加ご希望の方は、

お電話での事前申込みが必要

となりますので、下記の申込み先までご連絡ください。

中国語

11 / 16 (火) 12:00~12:45
30 (火) 12:00~12:45

英語

12 / 24 (金) 12:00~12:45
※申込受付は 12/18 (土) から開始

定員: 各 15名 (先着順)

場所: かごしま県民交流センター1階 会議室 A

※上記以降の日程については、協会 HP・FBにてお知らせします。

《申込み先》

(公財)鹿児島県国際交流協会 TEL:099-221-6620

「Kagoshima で暮らして」

鹿児島県の在住外国人の数は、年々増加傾向にあります。『国際交流ひろば』では、鹿児島で頑張る在住外国人の鹿児島での暮らし等についてご紹介しています。

今回は、イスラエルの出身で、南九州市在住 15 年目のパタシュニック ヤロンさん にお話をうかがいました。



パタシュニック ヤロン さん

出身地について教えてください。

—イスラエルのハイファという都市です。イスラエルは、ヨーロッパとアフリカの間にある日本の四国くらいの大きさの国です。南北に 500 km 程あり、車で 1 時間も運転したら景色が全く変わります。北は、緑が多く、冬には雪が降ります。南は、暑く、砂漠があります。海もきれいで、とても自然豊かな国です。

知覧で生活するようになったきっかけは何ですか？

—知覧出身の女性と結婚したからです。

イスラエルでの兵役後、世界中を旅しました。旅の最後に来日し、東北から南下して、鹿児島の知覧まで来た時に妻と出会いました。

結婚した当初は、イスラエルにいましたが、次男が生まれてから知覧で生活しています。もう 15 年程になります。

知覧は自然も多く、暮らしやすいと思います。知覧の太鼓や三味線を習ったり、役場で竹笛の演奏を教えてもらい、知覧ねぶた祭りにも参加しました。すごく面白かったです。ただ、ここは、夕方になったら店は閉まってしまうので、静かすぎると感じることもあります。

今の仕事について教えてください。

—手作りアクセサリーの販売と外国人向けのガイドをしています。ガイドをするために、地元の方から話を聞いたり、知覧観光協会にお願いして、観光施設などを一緒に回って教えてもらいました。最近、イスラエルでは日本ブームで、旅行先として人気があります。SNS に知覧や指宿などの写真を載せたら、少しずつイスラエルからお客さんがくるようになりました。イスラエル人は、自然がとても好きなので、武家屋敷や平和記念会館以外に頼娃の海岸や釜蓋神社、番所鼻自然公園などを案内すると、とても喜ばれます。でも、ここ 2 年くらいは、新型コロナの影響で仕事ができていないので、とても不安です。

ヤロンさんが思う鹿児島や知覧の魅力はなんですか？

—もちろん武家屋敷です。歴史も面白いですが、ここには、日本庭園があるんですよ。そこが、他の武家屋敷と違う点です。

それから、海もとってもきれいです。趣味でサーフィンをするので、頼娃や吹上、志布志のほうにも行きます。

焼酎もおいしいですね。昔は、全然飲めなかったのですが、焼酎会社に行った時に、もろみの香りがすごく良い匂いだと思い、それから好きになりました。今では、香りが強い焼酎が一番好きです。

家庭でのコミュニケーションについて教えてください。

—家族とは、ヘブライ語で話しています。私は、最初は日本語を使っていたんですが、妻と相談して、ヘブライ語で話すようにしました。おかげで、子ども達もヘブライ語が話せるので、イスラエルにいる私の母とも会話ができるんです。

妻は、イスラエルにいた時、一生懸命ヘブライ語を勉強して、現地の会社にも勤めていたんですよ。本当にすごいです。

私は、家族以外の人との会話で少しずつ日本語ができるようになりました。集落の掃除に参加したことがあったり、地域の人と関わって生活していますが、それでも、やっぱりわからない言葉はたくさんあります。そのため、日本人の友達ができても、本当の“親友”になるのは、なかなかです。生まれ育った文化の違いもあるから、その辺りは大変で

すね。時々、子どもにも「お父さん、ちゃんと日本語を勉強して」って言われます。お母さんみたいに厳しい(笑)。子どもが生まれる前に、日本語学校とかで、勉強しておけば良かったとすごく思いますね。

ヤロンさんには信じる宗教がありますか？

—ユダヤ教です。イスラエルにいた時は、厳しく守っていました。

ユダヤ教の食事では、厳格なルールがあって、食べて良い物といけないう物があります。例えば、豚肉や「ヒレやウロコのない」海の生き物は食べてはいけません。だから、エビやカニ、ウナギも食べられないんです。他には、乳製品と肉と一緒に食べてはいけないといったルールもあります。

ユダヤ教では、土曜日は安息日といって身体を休める日なのですが、この日は、労働は絶対にしてはいけないんです。なので、交通機関もストップし、多くのお店も閉まっています。街は、ロックダウンしているかのように静かになるんですよ。

イスラエルと日本で違いを感じることはありますか？

—いっぱいあります。例えば、いまだに社交辞令がわかりません。ねぶた祭りの反省会で、ある方が酔っ払って「ヤロン、ありがとう。今度うちに遊びにきてね」と言ってくれたので、1週間後に、遊びに行こうとしたら、妻に「それは、社交辞令だよ」と止められました。「僕と一緒にお酒を飲みたかったんじゃないの? どういうこと?」と思いましたね(笑)。

それから、日本では、家族や親戚との集まりが少ないと思います。イスラエルの休日は、金・土曜日なのですが、毎週金曜日になると、みんなが集まって食事をするんです。色々な話をして、とても楽しいです。日本では、そういった集まりは、お正月やお盆だけなので、少しさみしい気がします。

今後、やりたいことはなんですか？

—もっと鹿児島の人にイスラエルを紹介したいです。その一つとして、中東料理の“ファラフェル”を鹿児島の皆さんに味わってほしいと思っています。ファラフェルとは、ひよこ豆のコロッケのことで、イスラエルの NO.1 屋台フードです。それを野菜と一緒にピタパンに挟んで食べます。鹿児島の人に好きになってもらえるよう試行錯誤して、チャレンジしたいと思います。私はチャレンジが大好きなんです。



10月から始めたファラフェルの屋台 (道の駅川辺やすらぎの郷にて)

外国の方が住みやすい鹿児島になるため、どんなことが必要だと思いますか？

—色々なところで、もっと英語の情報があると良いと思います。食堂では、英語のメニューなんかもあると助かりますね。

それから、私は、鹿児島に住んでいる他の外国人をあまり知りませんでした。KIA (当協会) の講座を通して、色々な人に出会いました。だから、日本人と外国人だけでなく、外国人同士が交流する場所もあると良いですね。そのためには、食事が一番。昔あった屋台村のような、食事を通して交流ができれば楽しいと思います。



ヤロンさんのファラフェルは、
「YARONPT_TURKISH_COFFEE」で
ご紹介しています
みなさんもぜひ食べてみてください！

「かごしまから見える世界」 vol.5

かつてから外国との交流が盛んだった鹿児島。鹿児島に居ながらにして世界を感じられる場所をご紹介します。
今回は、いちき串木野市の「薩摩藩英国留学生記念館」をご紹介します。

イギリス大英博物館周辺のブルームズベリー地区は、大学や研究機関等が集まるロンドンの文教地区だ。その中のガウアー通りに正門を構えるのがロンドン大学ユニバーシティカレッジ(UCL)。1826年の開学当初から自由・平等主義の学風を持ち、宗教・政治的思想・人種による入学差別を撤廃した。日本からも幕末から明治、そして現代にかけて、多くの人材がここに学んでいる。1865年、藩命により英国に密航した“薩摩藩英国留学生”もそのうちのひとつである。今回は彼らの足跡を追うことにする。と言っても、ロンドンまで行く必要はない。目的地は、いちき串木野市羽島だ。

「薩摩藩英国留学生記念館」。東シナ海に臨む2階建ての建物で、幕末頃の洋館の風情を醸す赤煉瓦に白目地の壁が鮮やかに映える。上階には留学生が乗った船を模して本物の木製マスト付きの甲板デッキも設置されている。



薩摩藩英国留学生記念館 外観
(©薩摩藩英国留学生記念館)

館内は、1階から2階まで、それぞれに、テーマや時系列に沿った展示がされており、まずは、若き留学生たち(随行視察員4名含む)に渡航を命じた辞令書が目を惹く。当時は幕府の鎖国政策下で、辞令は「飢島、大島への渡海」を申し渡すと偽装されている。ちなみに、留学生たちも全員偽名を与えられ渡英した。2階は留学生たちの英国までの船旅を再現。羽島から乗り込んだ機帆船「オーストライエン号」などでの渡航ルートを示す大きな地球儀や各寄港先の当時の風景写真、エピソード資料を展示。



一行は、香港の夜景を彩るガス灯の美しさに目を奪われ、シンガポールではパイナップルの美味に驚き、外国人の接吻に不思議な感情を抱く。インドの3、4階建の高層建物に驚く。運河建設途上のスエズではラクダの見物に夢中になり、初めて乗る蒸気機関車の「疾風のごとき速さ」に驚愕する。まさに生まれて初めて“異国”に触れ、いきなり未来の世界に投げ込まれた留学生たちの戸惑いとそれでも怯まずにすべてのものがあるがままに受け入れ、呑み込もうとする気概が生き生きと心にしみる展示だ。

さらにその奥の展示室には、ロンドン到着後の一行の洋服姿の写真が壁面いっぱいにほぼ等身大で飾られ、大学での勉学の様子や見聞したものが映像や資料で紹介されている。中でも、彼らの滞英生活を最も親身に世話した UCL のウィリアムソン博士が留学生たちの勉学の場として科学実験室の借用を大学当局に願っている手紙の写しや、留学生の監督役だった町田久成からの

滞英生活資金の無心に苦慮する父が綴った返信の手紙などもあり、昨年から記念館に勤めるいちき串木野市の鴨川敏哉さんのきめ細かなご説明と相俟って、一気にその場所、その時代に引き込まれていく。

ただ、この記念館が伝えようとしていることは、留学生たちの英国での生活ぶりだけではない。彼らは羽島を出るときには、海軍術、砲術、測量術など、英国で学ぶべき課題をそれぞれ指示されていた。すなわち、当初は薩摩藩の富強のための渡英であったのだが、やがて“西洋の合理的文明社会”“民主主義的倫理観”に触れ親しんでいくうちに彼らの「藩意識」は変わっていく。そのことが、次の展示、帰国後の留学生たちの足跡の展示によって示されている。

日本の教育制度改革に献身した森有礼や島山義成、文化財保護に尽力した町田久成、商工業振興の五代友厚。一方で、唯一、留学後帰国せず、米国に永住しワイン醸造で財を成し「ブドウ王」と称された長沢鼎や、札幌の地で麦酒醸造所を創設しながら突然表舞台から姿を消し、やがて遠く離れた神戸で行路病者として死亡記事が新聞に掲載されることとなった村橋久成など、彼らの数奇な運命や生き様に関する展示も見ごたえがある。

この記念館は小中学校の課外授業や修学旅行での施設見学も多い。「子供達には、留学生一人一人の物語を通して、当時の若き留学生たちの気概や強い意志、たゆまぬ努力のさまを感じてほしい。」と鴨川さんは言う。記念館2階の甲板デッキからは、156年前に留学生たちがそこから船に乗り込み出発したといわれる小さな岩礁がある。この小さな瀬から世界に冠たる大英帝国に乗り込み、大きくその視野・思想を広げていった留学生たち。「藩意識」を脱却し「国家・世界観」の形成へとまがき続けた者たちの軌跡。現代のわれわれの国際交流の原点がそこにあるような気がしてならない。



記念館2階デッキからの景色
《留学生たちが出発したといわれる岩礁も見える》
(©薩摩藩英国留学生記念館)

記念館1階のカフェは、薩摩スチューデントがロンドンで視察した造船所「セント・キャサリン・ドック」にちなんで「セントキャサリンカフェ」。「デリーカレー」が人気のメニューである。

記念館からおおよそ1キロ北方に羽島崎神社がある。ここに、江戸時代、薩摩から出帆し、途中、嵐で遭難の後、ロシアカムチャツカに漂着したゴンザの祠と胸像がある。ゴンザはその後、ロシアにて世界初の日本語(薩摩弁)／ロシア語辞典を完成させたが、その薩摩弁が羽島の方言に似ていることから、この地の出身と推測され、祀られている。

薩摩藩英国留学生
記念館 からのお知らせ

「ash DESIGN&CRAFT FAIR 2021」

2021.11.20 (sat) - 12.5 (sun)

鹿児島・宮崎の57店舗を会場に、全国から様々なクリエイターが作品を発表するデザインとクラフトのイベントです。「黎明の地」に建つ薩摩藩英国留学生記念館では、いちき串木野市在住の三つ子クリエイターユニット「3FacE」が作品の発表を行います。「旅立ち」をテーマに物語を綴り、アクセサリー・木工・イラスト・刺繍の作品を展示・販売します。

詳細はこちら





JICA デスク鹿児島からのお知らせ！

SDGs や青年海外協力隊、JICA に関する出張パネル展を実施しています。内容や日程など、お気軽にお問い合わせください。



<実施例>

○鹿児島商業高校の芸術文化週間にて、SDGs パネルの展示



○国際交流・異文化交流イベントにて、JICA 海外協力隊のパネル展示



パネル展示の実施方法は様々です。ぜひご活用ください！
例えば、

- ・展示と合わせて、協力隊OBの話聞く機会を設けたい
 - ・SDGs パネルを通して、私たちにできることを考えたい
 - ・地域イベントで国際協力の話題を取り入れたい など
- ご要望に合わせて、対応させていただきます。
お気軽にお問い合わせください。



JICA デスク鹿児島 担当: 仮屋

TEL: 099-221-6624 (公財)鹿児島県国際交流協会内



県内各市町村および国際交流協会主催・共催の国際交流に関する
イベント情報等がございましたらお寄せください。

※ただし、掲載条件等がございますので、詳細についてはお問合せください。

がいこくじんそうごうそうだんまどぐち 外国人総合相談窓口

鹿児島にお住まいの外国人の方のための相談窓口です。生活、在留資格、労働、医療、福祉などで困ったことがありましたら、お気軽にご相談ください。

対応言語：日本語/英語/中国語/韓国語/ベトナム語/タガログ語/インドネシア語/ネパール語/クメール語/タイ語/ミャンマー語/ポルトガル語/スペイン語/マレー語/フランス語/ロシア語/ドイツ語/イタリア語/モンゴル語/シンハラ語/ヒンディー語

鹿児島県国際交流協会内

TEL: 070-7662-4541

E-mail: kiasoudan@gmail.com



Facebook



本誌・掲載内容に関する問合せ・申込み先

公益財団法人鹿児島県国際交流協会
(火曜～日曜 9:00～17:00)

〒892-0816 鹿児島市山下町14-50

かごしま県民交流センター1階

Tel: 099-221-6620 Fax: 099-221-6643

URL: <https://www.kiaweb.or.jp/>

Email: kia@kiaweb.or.jp

Facebook: <https://www.facebook.com/Kagoshima.Intl.Assoc>

「国際交流ひろば」は、ホームページにも毎月掲載しています。ご自由にダウンロードしてください。